

令和2年度土木学会全国大会 研究討論会
インフラメンテナンス総合委員会（その1）

インフラメンテナンス、次のステージへ ～自治体、市民、土木学会、それぞれの役割は～

主 催：（公社）土木学会 インフラメンテナンス総合委員会

日 時：2020年9月11日（金）13時00分から15時00分

参加方法：オンライン（YouTube ライブ配信）

詳細URL：<http://committees.jsce.or.jp/zenkoku/node/186>

視聴用URL：https://www.youtube.com/watch?v=_Nk-46swijk&feature=youtu.be
（右上のQRコードからも本URLにアクセス可能です）



主 題：

少子高齢化が進む将来のわが国でも、安全で安心な豊かな国民生活と安定した社会経済を保证するためには、インフラの機能を常に維持しておくことは不可欠であり、そのためのメンテナンスは国家の最重要課題である。インフラメンテナンスの高度化と実装は地方自治体等において強く望まれており、そのための情報発信や人材育成は土木学会にとって緊急に取り組むべき重要な課題の1つである。2020年6月、学会内のインフラメンテナンスに関わる委員会等を統合し、学会としての方向性を力強く打ち出していくために、インフラメンテナンス総合委員会が設置された。本研究討論会では、インフラメンテナンスを効率的に進める上での本質的な課題がどこにあり、それを解決するために土木学会が果たすべき役割について議論する。

プログラム（案）：司会：岩波光保（東京工業大学）

I 講演の部（各10分程度）

- 1) 総合委員会設置の意図と内部構造及びミッション：家田仁（政策研究大学院大学）
- 2) これまでの土木学会の取り組み：中村光（名古屋大学）
- 3) 総合委員会の提言骨子：岩波光保（東京工業大学）
- 4) アクティビティ部会の活動計画：岩城一郎（日本大学）

II パネルの部（コーディネータ：久田真（東北大学））

- 1) 問題提起 久田 真（東北大学）
- 2) 話題提供① 末松則子（鈴鹿市長）
- 3) 話題提供② 山崎エリナ（写真家）
- 4) 総合ディスカッション

パネリストは、上記の他に、野澤伸一郎（東日本旅客鉄道）、田崎忠行（日本建設機械施工協会）を予定

※第1部の登壇者も必要に応じて議論に参加する。

III 総括コメント：伊勢勝巳（東日本旅客鉄道）

令和2年度土木学会全国大会 研究討論会
インフラメンテナンス総合委員会（その2）

社会インフラメンテナンスに関わる新技術の開発と活用拡大を考える
－ 取組みと提言 －

主 催：(公社)土木学会 インフラメンテナンス総合委員会 新技術適用推進小委員会

日 時：2020年9月11日（金）15時30分から17時30分

参加方法：オンライン（YouTube ライブ配信）

詳細URL：<http://committees.jsce.or.jp/zenkoku/node/183>

視聴用URL：<https://www.youtube.com/watch?v=oGW0bBtXOUw&feature=youtu.be>
（右上のQRコードからも本URLにアクセス可能です）



主 題：

社会インフラの崩壊に伴う重大リスクの顕在化や維持管理費の増大が社会問題化して久しい。厳しい財政状況の下、予防保全による事故防止、ライフサイクルコストの最小化を実現するためには、新しい技術の開発とそれを活用する社会制度が不可欠であるが、多くの有用な技術開発成果がされてきているにもかかわらず新技術の社会実装が不十分な現状にあることが危惧される。このような認識から、インフラメンテナンス総合委員会・新技術適用推進小委員会では、新技術適用推進のための制度構築とその基幹となる、性能規定に基づく発注仕様制度の具現化方策を提言した。本討論会では、この提言を基に、新技術開発とその技術開発成果の活用拡大方策を議論する。

プログラム（案）：座長：藤野陽三（城西大学学長、東京大学・横浜国立大学名誉教授）

- 1) 基調講演：インフラメンテナンス分野の新技術適用推進に関する提言：田崎 忠行（小委員長）
- 2) 報 告：技術開発の継続に資する課題解決と実装に向けた戦略：若原 敏裕（大崎総合研究所）
- 3) 話題提供：
 - ① インフラ維持管理分野における新技術普及のための開発課題：錦野 将元（量子科学技術研究開発機構）
 - ② 土木分野における開発技術普及の課題：加藤 直也（デンソー）
 - ③ 新技術の普及に向けた方針・開発行為のサステナブル化：野田 徹（副小委員長）
 - ④ 道路分野における新技術導入促進の取組みについて：森下 博之（国土交通省）
 - ⑤ 地域の大学を基点とした地域実装に向けて：黒田 保（鳥取大学）
 - ⑥ 鳥取県におけるインフラ維持管理への新技術導入の取組み：藤井 優（鳥取県）
 - ⑦ インフラメンテナンス効率化に向けた自治体との協働の取組み：鎌田 貢（東北大学）
 - ⑧ 山形県における道路橋データベースシステムの運用と利活用：吉田 博之（山形県）
- 4) パネルディスカッション：

提言、開発者からの課題提起、国・地域の取組みに加え、高度成長期に大量整備された、高速道路ネットワークの急速な老朽化に対する技術開発等に関する討論を行い、藤野座長が「持続可能なインフラを支える新技術の活用拡大」を総括する。